

ネット社会の光と陰

ソニーは、インターネット配信サービスから利用者約7700万人全員の個人情報が流出しことを明らかにいたしました。

また、ネットワークシステム内には、有効期限切れのものも含めて全世界で1230万人分もの顧客のクレジットカード情報があるとのことですから、これまでのところ不正使用されたとの報告はないとはいえ、ネット社会の持つ脆弱性を改めて感じないわけにはいきません。

私たちは、インターネットをはじめとする情報通信ネットワークの普及・発展によって、一昔前では考えられないような便利さを手にしています。しかし同時に、私たちは、便利さに潜む陰を背負うことにもなりました。

インターネットは、まさに網の目のように多くの人と人を繋ぐ、新しいコミュニケーション社会を実現しました。ただ、この新しいコミュニケーション社会は、インターネットが持つ「匿名性」によって支えられている側面があります。これが、ネット社会の光と陰を生み出しているのではないかと考えます。

この「匿名性」は、利用する者にとって「自由に振る舞える」という一面と同時に、まさにその「匿名性」故に、例えば、特定の個人を誹謗中傷しても自分は傷つかないという「隠れ蓑」にもなっています。「裏サイト」による陰湿ないじめなどは、その最たるものでしょう。

インターネットの「匿名性」によって発生する問題は、システムと同時に社会のありよう、人々の生き方そのものが問われているということでもあります。つまり、如何に精緻なシステムを作っても、「システム」の匿名性を維持しようという共通の意志、つまり人と人との信頼関係を醸成しようという努力がない限り、インターネット犯罪は無くなりません。

インターネットは、出したい時に出せますし、相手の顔が見えませんがいいいたいことがいえるという意味では非常にお手軽だし、便利ではありますが、こうしたお手軽さ、便利さだけでは、信頼に裏打ちされた人間関係を作ることは難しいと思います。

豊かなコミュニケーション社会を作るということは、より良き人間関係を作るということであります。その為の時間暇を惜しまない、エネルギーの出し惜しみをしないということが、何より大切だと思っています。（塾頭 吉田 洋一）